

公明党の自立路線時代(10)

平野 貞夫
元参議院議員

8月22日投開票の横浜市長選挙は政局を直撃した。菅儀偉首相は延命の愚策を講じたが、それがために自分の首を絞める結果となった。後継は9月29日の自民党総裁選挙で、宏池会の岸田文雄前政調会長が当選した。2012年以来的の決選投票となり、当初党員レベルで圧倒的人気があった河野太郎ワクチン担当大臣を破り圧勝した。

この自民党総裁選の特徴は、決選投票で岸田氏が「安倍・麻生政治の継承」を選択して勝利したことである。宏池会会長として「丁寧で寛容な政治」や「新しい資本主義」を当初訴え、国民に安心感を与えた。しかし、安倍元政権からの「負の遺産」を背負うことになった。森友問題に厳しい姿勢を表明していたが、安倍元首相の意向を付度して再調査を否定した。

党員や多くの国民は「何時もの岸田の頼りなさ」として批判をした。10月末の衆院総選挙に大きな影響を受けることになる。国民の中には、過去の池田・大平・鈴木・宮澤という宏池会政治という「嘘のない政治」を期待していた。岸田新総裁の「嘘の特技」が安倍政権を復活させた。宏池会の死滅といえる。もうひとつの特徴は、臨時国会で首班指名が行われ、任期満了を直前に解散という不正常な形で総選挙となる。多分「自公政権」が維持となろう。安倍・菅政権に比べ創価学会・公明党との関係が薄くなることの特徴だ。安倍・麻生・菅、さらに公明党にわたる疑惑問題を司直は放置しないだろう。司直の法と証拠による健全な活動を期待する。

浜田邦夫元最高裁判事の「安倍首相の憲法を崩す政

治」への意見書を関係者は傾聴すべきだ。

ようやく始まる消費税国会

消費税国会と銘打って1987年7月19日に召集された臨時国会も、会期を1カ月以上浪費した。野党側の要求する減税先行の議員立法も約束どおり成立した。にもかかわらず消費税関連の税制改革法案の審議入りはできなかった。

8月末、三塚博衆院議院運営委員長は私に「公明党説得のため、二見(伸明)副書記長と会談したい」との話を持ち込んできた。8月29日正午から赤坂プリンスホテル新館で、3人が会った。話のポイントは次のとおり。

○三塚議運委員長 9月2日に消費税制6法案の衆院本会議での趣旨説明と質疑を行ってほしい。併せて法案審議のため特別委員会の設置をなんとかしてやってほしい。

○二見副書記長 リクルート特別委員会の設置を拒否しておいて、法案審議のための話には乗れない。リクルート問題の究明と不公平税制問題を集中して審議する方策を考えてほしい。

○三塚 平野君、何か智慧はないか。

○平野衆院委員部副部長 考え方として、税制改革など関連する諸問題を調査し、その対策を樹立するため「税制改革等に関する特別委員会」とすれば、調査も法案審議も全て取り上げることができる。

○二見 リクルート問題も税制との関係がある。そこで参考人を呼ぶこと。不公平税制の冒頭集中審議をすることを条件とするなら、矢野(絢也)委員長を説得する。

公明党では二見副書記長が、矢野委員長の説得に成功。与野党間で衆院に「税制問題等に関する調査特別委員会」を、9月9日に設置することが決まる。設置目的は「不公平是正及びリクルート等税制に関する諸問題を調査するため」とし、50人の大型委員会、特別委員長に自民党の金丸信氏を互選した。その特別委員会、同日14日と16日の2日間税制改革6法案の審議に先行し、リクルート問題と不公平税制問題の集中審議を行った。

税制改革6法案の本会議趣旨説明と質疑は9月22日に、社会党と共産党の欠席した本会議で、自公民で深夜にわたって行われた。本会議終了後の税制特別委員会、税制改革6法案の提案理由説明が行われ、リクルート社前会長の江副浩正氏を参考人として招致する

ことを議決した。社会党と共産党は、これらの議事に
 全て反対して審議拒否した。

消費税制度導入の議論を始めるにあたり、不公平税
 制とリクルート疑惑の調査を先行して審議すること
 を、自民党政権に了承させた公明党ベースによる公
 民シフトは国民の理解を得た。公明党が自主路線を成
 功させた成果の最初であった。これに反発したのが社
 会党で、共産党とともに「消費税粉砕」を党是として
 突っ走っていく。

消費税国会の召集日は7月19日であった。会期を7
 日と議決し会期最終日は9月26日である。税制改革6
 法案の衆院審議が始まったのが9月22日。残り期間は
 4日間となった。自民党は67日間の大規模会期延長を両
 院議長に申し入れた。

社会・共産両党は「会期延長は消費税導入に道を開
 く」として衆院本会議に欠席する方針を表明。公明・
 民社両党は「不公平税制の是正とリクルート問題解
 明」のためとして2週間程度は認めるが、大幅延長は
 反対とした。

自民党は延長幅を「59日間」に短縮する再提案をし
 たが合意に至らなかった。結局、会期最終日の9月26
 日、衆院で自民・民主両党のみが本会議に出席して、

相のリクルート名義株問題」の究明を行わないままでは
 すまなくなつた。

実はこの時期、税制改革6法案の審議予定が、自民
 党と民社・公明両党間で非公式に合意されていた。民
 社党の米沢（隆）書記長は独自の修正要求を準備し
 て、11月10日前後に衆院を通過させることを了承して
 いた。

これまで社会党との共闘にこだわっていた公明党の
 大久保（直彦）書記長は、福祉基本法制定で「日本型
 福祉社会の政策提言」が気に入る、すっかり福祉づい
 ていた。11月29日からの公明党大会で「新福祉提言」
 の基調報告をするつもりになり、税制改革に協力的に
 なっていた。被害を受けたのは私で、基調報告の原稿
 まで頼まれていた。

10月17日「宮沢蔵相のリクルート名義株問題」につ
 いて、大蔵省の日高文書課長が来訪。「宮沢蔵相は被
 害者」とのことで対応できないかアドバイスを求めに
 来た。「服部秘書が勝手にやったことを世間に説明し、
 監督責任者として陳謝するのが筋。公明や民社は何と
 か知恵を出して、社・共に尻尾をつかませるなど言っ
 ている」と伝える。

10月下旬の税制改革審議は予定が決まっていたので

11月24日まで59日間の会期延長が議決された。臨時国
 会での会期延長幅の最高記録は第30回国会での30日間
 であり、倍近い大幅延長に野党側は強く反発し、審議
 が軌道に乗ったのは10月6日だった。

与野党にわたるリクルート疑惑の混乱

正常化のきっかけは10月5日の矢野公明党委員長の
 都内での講演で、税制改革の最優先課題として①株式
 売却益の総合課税への移行②納税者番号制の導入③福
 祉・医療・年金政策の充実など、税制審議に条件闘争
 で挑むということであった。

正常化した税制問題等特別委員会が「不公平税制
 度是正問題」の集中審議が始まるや、国民世論から
 「リクルート事件」への解明に強い要求が出た。野党
 は江副リクルート社前会長の国会招致を要求、参考人
 として出席するまで審議に応じないとの態度に再び硬
 化した。ところが江副氏は「病氣療養中」として半蔵
 門病院に入院、国会への招致不可能となる。

10月12日に入院中の江副氏を、金丸委員長ほか税制
 問題特別委員会代表が病床質問を行うことになる。そ
 こで出てきたのが「宮沢（喜一）副総理兼蔵相本人名
 義への譲渡」などであった。税制改革論議は「宮沢蔵

進んだが、11月に入って想定しなかった情報が飛び出
 し大混乱が始まる。

11月1日、毎日新聞のA記者から「12月号の『文藝
 春秋』に、リクルート株が創価学会・池田大作名誉会
 長、公明党の矢野委員長、池田克也衆院議員に渡され
 たという話が出るらしい」との情報を得た。調査した
 ところ、「文藝春秋」は立花隆氏をキヤップに創価学
 会関係者を洗っていたが、池田名誉会長と矢野委員長に
 ついては噂の域を出ないので記事掲載は取り止めたと
 のこと。

2日の税制改革特別委員会は、金丸委員長の裁断で
 11月9日までに東京での公聴会、地方公聴会を決めて
 審議が進むかを見えた。

4日、社会党の上田卓三衆院議員が、リクルート疑
 惑で名前が出ることを予想して議員辞職願を提出し
 た。リクルート疑惑は与野党にわたることになった。

5日、公明党の矢野委員長が記者会見で「税制改革
 特別委員会で、江副リクルート前会長ららの証人喚問、
 服部氏らの国会招致の日時を決めない限り、公聴会と
 地方公聴会以後の審議に協力できない」と発言。大混
 迷となる。